

諫早商業高校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：宮島議員、千住議員 学生：諫早商業高校2年生5人

○発表テーマ：コロナ後を見据えたインバウンド向け観光コンテンツの開発と発信

○意見交換会要旨

(宮島議員)

アフターコロナを見据えた観光の再生・振興が焦点であり、特に高校生独自の視点による新たなツールを使ってビジネスへの取り組みは大変素晴らしい。このような芽が多く出てくれば、日本の産業の振興に繋がると感じる。

(千住議員)

今回の発表では、中国からの訪日客の状況について取り上げていたが、中国を選んだ理由は、

(生徒)

中国人客を選んだ理由は、日本への訪日者全体のうち、国別・地域別で1位にも関わらず、長崎への来訪者数が少ないこと、また、自分達の国際コミュニケーション科では中国語が必修科目であり、中国人との交流もあることから目を付けたもの。

(千住議員)

マイクラフトのゲームを利用した街づくりも、我々にはない発想であり非常に勉強になった。

(生徒)

長崎県への観光客が減っていつている中で、どのような政策が必要と考えるか。

(宮島議員)

一般的に、文化観光と自然観光の2つが、旅行の柱である。文化観光とは例えば京都の仏閣などが有名であり、これは大都市が中心となることが多い。長崎のような地方部では自然観光に力を入れて観光を盛り上げていくことが大切。

(生徒)

県外・国外から長崎観光に来ると、長崎市だけの観光となり、諫早に来ることが少ないと感じる。どうしたら諫早に観光客を呼び込めるか。

(千住議員)

観光は発信力が重要である。政策提案の中にあつた、メタバースの活用というのは今後、大きな発信力を持つのではないか。

(生徒)

将来、観光業へ就職したいと考えているが、これから長崎の観光業がどうなっていくか。

(千住議員)

これまでは県外からの客を獲得していたが、これからの国際化の時代においては、外国人客の獲得が重要となってくると感じる。近隣のアジアだけでなく、様々な国から観光に訪れる。

(宮島議員)

長崎の観光業の課題は、点での観光を面にまで広げること。長崎には魅力のあるコンテンツはあるものの、それが周遊できるような仕組みが整っていない。それを繋げるようなものができれば、長崎の観光業は更に発展してすると思う。

(生徒)

県議会議員になって良かったと思うことは、

(千住議員)

議員には日々、色々な相談がくる。一つ一つ話を聞いて、解決して感謝されたときに良かったと感じる。ただ、議員である自分が解決できるものではなく、解決できる人に繋ぐ役目を議員として行っている。

(宮島議員)

身近な生活の中でも、政治というのは様々関わっている。学校の仕組みや教育費、子育ての費用なども政治の中で決められている。

若者の政治離れが進んでいるが、政治は身近にあるということを知り、関心をもってもらい、是非政治家を目指して欲しい。